

# 教育だより (教育委員会より)

## ドリプラ in 海士中学校

1月12日、海士中学校の多目的室において、「ドリプラ in 海士中」を行いました。ドリプラとはドリーム(夢)プラン・プレゼンテーションの略で、夢を実現させるために「観客を感動・共感させるプレゼンテーション」を10分間で行うものです。海士中では今年度も、「自分の夢を人前で堂々と語り、夢の実現に挑戦し続ける海士中生徒の育成」を目指して3年生を対象に全3回の出前授業を行っており、今回のドリプラはその集大成となりました。

島外から講師を招いた2回の出前授業に続き、第3回の出前授業(昨年12月)には、出張料理で海士町にイタリヤ料理を拡げている桑本千鶴さんと、悩むふさと海士で地場産業を支援する門昌之さんという、海士町在住の2人の若者に参加していただいて、自分の夢の実現に向けて「がんばる理由」を皆で考えました。

## 教育だより (教育委員会より)

本番までには色々なドラマがありました。自分の興味あるもの、やりたいこと、目指す夢が見えず苦しんだり、夢を語るこの意義が分からずやる気を失う生徒もいました。逆に、出前授業で大人が本気で夢を語る姿を見て自分もがんばろうと思えたり、自分の話をじっくり聞いてもらって初めて本音が言えた生徒もいました。グループワークで皆さんの支援を受け、やっと原稿ができた生徒もいました。これらの経験の全てが生徒たちを成長させてくれました。こういう経験をさせてくれた方々との出会いがあつたからこそ、最後には堂々と自分の夢を語れたのだと思います。

様々な形で生徒を支えてくれた教育委員会、巡の環を始めたとした地域の方、いつも近くで見守ってくれた保護者の皆様、すべての人との出会いがあつて初めて成功したドリプラです。すべての出会いに感謝します。

(海士中・増本邦雄)

終了後、メンターカード(応援や感想等のメッセージ)を一人ひとりに手渡していただきました



■生徒の発表原稿の一部を掲載します。是非「」読ください。

### 「父を追いかけて」

田中 裕志

海士町のために何かしたい。この島を他の島や他県に負けないような島にしたい。これが僕の夢です。僕が今描いている夢は、海士町の人口を今よりも多くしていくことです。今でも海士町はいろいろな試みをして、町の雰囲気盛り上がりつつあると思います。僕は時々寂しさを感じますが、例えば産業文化祭など、年々海士町の行事に参加する人が少なくなっている気がします。この寂しさをなくしたい。僕は人口問題を解決することでこの島を元気にしたいと思いました。

僕はこの島が好きです。人は温かいし素敵な人がたくさんいます。住んでいる人が笑顔で幸せになれるような島にしていきたいと思っています。きっかけは僕の父の姿です。

父は、海士町役場で働いています。普段の帰宅はとても遅く、休日出勤もよくあります。どうしてそんなに頑張っているのかと聞くと、「お前らのために頑張っている」という答えが返ってきます。僕はこんな父を誇りに思います。島にお客さんが来ると、海士町での生活を満喫してもらうために細かな配慮をしてくれたり、海士町のプレゼンを考えて、出張先でピーアールしたりしています。今年の産業文化祭でも、走りながら一生懸命裏方の仕事をしていました。

そんな多忙な中でも、父はちゃんと家族のことを考えていてくれます。家でも仕事でも、とても頼りになる存在です。僕も将来は、父のように自分の育った海士町のために働き、仕事でも家庭でも一生懸命になれる人になりたいと思っています。実際に僕には僕は周りの人を支えていくような仕事をした

いと考えています。「裏方は目

立たないけどとても大切だ」と父が言っていたのが印象に残っているからです。裏から支えるのは意外と大変で自分の時間を削ってしまうかもしれないけれど、この頑張りでみんなが笑顔になってくれたとき大きな達成感と喜びがあるとも教えてもらいました。

しかし、この島のために一体何ができるのだろうかと思いましたが、そんな時、この「ドリームプランプレゼンテーション」に出会いました。出前授業で僕は「海士町のために何かしたい」という夢を語りました。そして、参加してくださった大人の方からメッセージをいただきました。そこには

「自分の島のために働きたいって思っているのいいことだ」などの言葉がありました。僕は、島前高校で、もつと海士町が抱えている問題を学びたいと思うようになりました。そして大学に進学して、その問題を解決する方法やこの島がより活性化するためにできることを学んでいきます。

自分が住んでいる島のために一生懸命になれることは素敵だと思いませんか。

僕はそれを目指します。

# 海士町子ども議会

2月25日、役場3階大会議室

において、今年で7回目を迎える海士町子ども議会が開催されました。福井小12名・海士小9名の6年生21名の子ども議員が、社会科や総合的な学習の時間を使い考えてきた「海士町の生活をより良くしていくための提案」を元氣よく発表しました。

児童はアンケートやインタビューなどの調査から得られた結果をもとに、自分で作成した資料を提示しながら提案しました。

子ども議員からは、「隠岐牛の飼育体験ができるようにしよう」・「海士町スタンプラリーをしよう」・「後鳥羽上皇かるた大会を開こう」など産業・観光・医療・教育・建設・環境など様々なジャンルから21の提案が出されました。(※全提案内容については、別途全戸配布する「子ども議会便り」をご覧ください)

中でも「映画の上映会を開こう」という提案に対して町長は、「先日、改修された開発センターのホールで、映画撮影で海士町に来ておられる京都造形芸術大学の方々を中心に映画会が行わ

れた。映画上映はできないことではない。上映会は積極的に考えていきたい。」との回答がありました。

また、「ひまわり前の公園をもっと充実させよう」・「公園の遊具を守ろう」といった公園や遊具に関する提案に対しては、「運動公園として広げることができないが、今ある施設(学校の体育館など)をもっと有効に使うことを考えてほしい。また、公園で遊ぶというよりは、海士の自然で遊ぶことを考えてほしい。」という回答がありました。それに対して、提案者の一人波多海人君は、「ぜひ、ぼくも外で遊ぶことが多いので、もっと他の人にも教えていきたい。」と町長の答弁に対する自分の思いを述べる姿が見られました。緊張のためか、前半は一つしか質問が生まれませんでした。後半は、公園に関することも含め、中学校の部活動や寒稽古に関する答弁に対して活発に質問や意見が出されました。

子ども議会の締めくくりは、自分たちが暮らしている海士町の生活がより良くなっていることを願って「海士町民の歌」を出席者全員で歌いました。最後に両校を代表して、4年間連続で子ども議会に関わら

た海士小学校6年生担任の山下裕次教諭が子どもたちに寄せた思いとともにお礼の言葉を述べ閉会となりました。

(地域共育課・吉山)



皆さんからの素晴らしい提案一つひとつに、山内町長も真摯に応えました。最後に全員で記念撮影。

CAS 技術で冷凍ミカンを作ってはどうか、など地場産業の発展に向けたさまざまな提案が。



続けていきましょう。

◆出張講習します！

公民館や子ども会、老人会、サークルなどで取り組んでみたいという方はぜひご連絡下さい。

◆アマサポで買えます！

コンポスト資材が海士町生活サポートセンターに移動しました。セット(ダンポール、ピートモス、もみ殻くん炭、冊子など)や単品で販売しています。

【問い合わせ】

●講習会開催について↓

中央公民館(2:1221)

●購入について↓

海士町生活サポートセンター(2:1322)

ダンポールコンポストは、ダンポールの中に、ピートモスともみ殻くん炭を入れたもので、微生物が生ゴミを分解し堆肥にしてくれます。これまで教育委員会で行ってきた講座ですが、これからは地区へ出かけ開催する予定です。

1月30日には、東公民館(16名)と菱浦のすみれ会(9名)で行いました。東地区、菱浦地区には、既にダンポールコンポストに取り組まれている方達がいるので、実際に使っているものを見せてもらいました。生ゴミが分解しているのを見て、皆さん不思議に思いながらもワクワクしている様子でした。

生ゴミ堆肥はたとえ一人の取組みでも環境保護に大きく貢献できます。楽しく

